

# 2021 年度 個人研究実績・成果報告書

2022 年 4 月 4 日

所属	商経学部	職名	教授	氏名	永井克昇
研究課題	主体的・対話的で深い学びを実現させる ICT の活用について				
研究キーワード	主体的学び、対話的学び、深い学び、アクティブ・ラーニング、ICT、情報教育	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	4. 質の高い教育をみんなに	17. パートナリーシップで目標を達成しよう	該当なし	該当なし	

## 1. 研究成果の概要

2021 年度の研究課題は、今年度から年次進行で実施される高等学校学習指導要領において強く要請されている各教科・科目での学びを「主体的、対話的で深い学び」にするために ICT の活用の有効性について明らかにすることである。具体には、主体的・対話的で深い学びの実現させるための ICT の活用の在り方について実践的に探求することである。昨年度は、この研究の理念や方向性に沿って教育が目指す目的と主体的・対話的で深い学びの関連性について整理し、ICT の活用の在り方について明らかにすることができたなど、期待どおりの成果が達成できた。なお、昨年度、私の「卒業研究」の履修学生がこの研究課題と同様の内容を卒業研究のテーマとして研究に取り組み、成果を卒業論文として整理し、提出したこともあり、私自身の研究成果については今年度、論文にまとめることにした。

なお、その代替としてこれまで研究を進めていた次の 2 つの研究課題について、研究成果を論文にまとめ本学の論叢及び紀要に投稿した。

### 1. 教員に求められる資質・能力と「生きる力」

#### <上記研究の成果概要>

現在、複雑で、多岐にわたる学校教育に関する問題の解決を、教員には強く求められている。そのためには、教員はどのような資質・能力を身に付けるべきなのだろうか。このことについて、これまでも様々な機会に議論され、提言されてきた。本研究では、主に中央教育審議会の答申や教育再生実行会議の提言を手がかりとして、これからの教員に求められる資質・能力について整理するとともに、その内容を踏まえ再構成した要素について提言を試みた。今回のこの考察に当たっては、学習指導要領が児童生徒に身に付けさせることを目指している「生きる力」を教員に求められる資質・能力に関連付けながら研究を進めた。さらに、本研究で明らかにした教員に求められる資質・能力を、本学の教職課程で学ぶ学生に理解させるとともに、それらを身に付けさせるための教職課程における授業の取り組みについても紹介した。

### 2. 「道徳教育の理解と指導」の指導理念と実践

#### <上記研究の成果概要>

「知る」とは単に分かる、理解するというのではない。真に知るとは、自らの学びによって知ることができた内容をその趣旨に沿って実践できる、ということである。つまり、道徳教育の真の担い手・実践者である教員は、なによりもまず道徳教育を真に知る人でなければならない。このことを踏まえ、教職課程に学ぶ学生には「道徳教育の理解と指導」の授業を通して、道徳教育の真の理解者になって欲しいと考えている。そのために本学では、文部科学省が示した「道徳の理論及び指導法の教職課程コアカリキュラム」の趣旨を踏まえて、

「道徳教育の理解と指導」の授業をデザインし、実践している。本研究は、こうした「道徳教育の理解と指導」を指導するに当たっての基本的な理念とその実践の報告である。

2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

**【論文（査読あり）】**

なし

**【著書・論文（査読なし）】**

1. 「教員に求められる資質・能力と「生きる力」」（千葉商大論叢第 59 巻第 2 号：2021 年 11 月刊）
2. 「「道徳教育の理解と指導」の指導理念と実践」（千葉商大紀要第 59 巻第 2 号：2021 年 11 月刊）

**【学会発表等】**

なし

3. 主な経費

昨年度の個人研究費については、上記の研究を進め、またはその成果を論文にまとめる際に必要となる書籍及び消耗品等の購入に使用した。なお、昨年度の研究課題に即した先行研究や関連研究及び先進事例等の知見を得るために予定していた学会や研究会への出席については、現下のコロナ禍の影響で全てオンライン形式の開催となったため、旅費等の請求はしていない。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

なし